

担当部署	健康医療局保健医療部がん・疾病対策課がん・循環器対策グループ 電話 045-210-5025
B-3	中皮腫の発見には、どのような検査が必要ですか。 (平成24年4月1日更新)

【答】

良性の胸膜の中皮腫は、胸部単純 X 線写真や胸部 CT で胸の中のしこりとして認められます。身体の外から細い針を刺して組織を採取して、診断がつくこともあります。手術でやっとな診断がつくこともあります。

一方、悪性のびまん性の胸膜中皮腫は、胸部単純 X 線写真や胸部 CT で肺全体をつつみこむように広がった胸膜の肥厚や多数のしこりとして認められ、胸水を多量に伴うこともあります。しかし、肺がんなどの胸膜播種（きょうまくはしゅ：肺がんが胸膜面全体にばらまかれて広がった状態）との鑑別が難しい場合も多く、胸に針を刺して胸水の中の腫瘍細胞を調べたり、局所麻酔下の生検（組織採取）や胸腔鏡などで胸膜面の腫瘍を採取してそれらを調べる必要があります。また、病巣の進展範囲を評価するために胸部・腹部 CT や MRI、あるいは超音波検査などを行います。

参考 国立がん研究センターホームページ
<http://ganjoho.jp/public/index.html>